
RIDER WORLD

零崎 正識(ムータロス憑依ver

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

R I D E R W O R L D

【Nコード】

N 2 6 2 4 S

【作者名】

零崎 正識（ムータロス憑依ver

【あらすじ】

ライダー大戦の世界を旅立ち、いくつかの世界を巡った士達。
新しい世界で出会ったのは見覚えのある男！？

この小説は、他のほのぼの小説を読んで、自分も書きたいとか思っ
てしまった作者の自己満足小説です。

こんなあらすじなのに

主人公とかは居ません。

毎回毎回変わる予定

亀更新です

プロローグ 到着、平成ライダーの世界（前書き）

とうとうやってしまいました。

一部に2つも連載とか馬鹿なんじゃないだろうか

プロローグ 到着、平成ライダーの世界

スクロールが降り、新たな世界への移動が完了した。

まだ確認していないが、恐らく外に広がる光景はまるで異なるモノに変わり果てているだろう。

士達はスクロールの絵を見る。

「これは…」

「俺達仮面ライダーの」

「マーク……か？」

そう、そこに描かれていたのは、これまで巡ってきた世界のライダー達を象徴するマーク達。

世界を象徴するライダーだけでなく、全てのライダークレストが揃っている。

無論、それはディケイドも含めて、だ。

「今度は何の世界なんだ？」

「またライダー同士が戦うような事がなければいいのですが…」

全てのライダーのマークが描かれている事に、かつて旅したライダー大戦の世界の再来を危惧する夏美。

「大丈夫だよ夏美ちゃん。

もう俺達は士が破壊者なんかじゃないって信じてる。

もしまたあんな世界に来てるとしても、みんな一緒ならきつと大丈夫」

不安そうな夏美を元気づけるように、満面の笑みでサムズアップするユウスケ。

「お久しぶりです、ディケイド」

と、ここで、写真館に居たはずの3人の周囲が、まるで宇宙空間のような光景に切り替わる。

「またお前か」

「確か…紅 渡さん」

もう何度目になるかわからない馴染みの青年の登場に飽きれる士だが、夏美とユウスケは警戒を強める。

「で、今日は一体何の用だ？」

また俺の旅を終わらせる為に来たのか？」

「まあ半分当たりで半分外れと行った所でしょうか。」

はぐらかす渡の言葉に士は苛立ちをつのらせていく。

「貴方が旅した世界が、リ・イマジネーションの世界であった事は話しましたね？」

「ああ。オリジナルの連中にも会ったよな、殺されかけたり殺したりしたが」

「ちょっと土くん。

もうちょっと言い方ってものがあるでしょう。

渡さんに失礼です」

ようやく話し始めた渡に茶々を入れる土と、それを諫める夏美。

「いえ、お気になさらずに。

スーパージョッカーを倒した後、貴方達はダブルの世界とオーズのオリジナルの世界を旅しましたね」

「まあそうなるな。

別にあいづらがオリジナルかどうかは知らないが」

「その後、各オリジナルの世界に異変が起きました」

渡はそこで話を止め、一旦上方を指差す。

そこには12個もの地球が、輪を描くように並んでいた。

「どの世界からともなく、全てのオリジナルの世界が融合して行っただのです」

12個の地球達が、ゆっくりと輪の中心へ集まって行く。

「またそれか。

じゃあなんだ？

また俺を倒しに来たのか？

それとも今度の原因はグレイトショッカーか？
アルティメットショッカーか？」

「そんな……じゃああの世界での俺達の闘いは無駄だったとでも言うのかよ！」

呆れて適当に返す士とは違い、ユウスケは憤慨して渡に詰め寄る。

「そうではありません。

原因は今の所不明ですが、今度の融合の特徴は、融合する事で生まれた新しい世界が崩壊しない事なのです」

動じる事なく淡々と語る渡の言う通り、見れば12個あった地球は1つの地球として成立している。

「世界が融合した事により、死んだはずの人間が蘇ったり、狂暴だった怪人達が大人しくなったりと変化はありましたが、世界は概ね平和です」

「仮面ライダーが居るのに平和だア？

じゃあこの世界での俺の役割はなんだってんだ」

『生命ある限り戦う』そんな仮面ライダーの在り方をひっくり返す渡の発言に思わず聞き返す士。

「それが、最初の質問に半分当たりと答えた由縁です。

この世界は、再び分離するような事がなければ安定したまま。故に、貴方の旅は今の所はここで終わり。

この世界は、どのライダー達にとっても自分の世界なのです」

「ちょっと待て。」

『どのライダー達にとっても』と言ったな？
だが、スクロールにあったライダークレストは確かに多いが、とてもじゃないが全部には程遠い数だったぞ？」

そう、スクロールにあったのは俗に言う平成ライダーのクレストのみ。

昭和ライダーのマークが抜けていた。

「はい、その通りです。」

融合してしまった世界は今の所12個だけ。
世界が融合すると同時に私達の管理者としての能力も失われ、他の世界がどうなっているのかは検討もつかないのが現状です」

わずかに残った管理者としての能力で、今いくつの世界が融合しているかを知る事は出来ませんがね。

と、渡は力なく笑いながら付け足した。

「僕の話は以上です。」

旅に出たければ世界を再び分離させる方法を探すもよし、この状況を受け入れて居着くのもいいでしょう。
では、ヴァイオリンの材料になりそうな物が手に入ったら僕の所へお願いしますね」

その言葉を最後に、3人の意識は再び写真館へと戻って来た。

「おいお前ら。」

今の話どう思う？」

先程の話を信用していいものか、ユウスケと夏美に尋ねる士。

「罨……とか？」

「それはないと思います」

渡の話を疑うユウスケだったが、夏美がそれを否定する。

「どうしてだ？」

「だってあの人、闘いに来る前にわざわざ『今から僕の仲間が貴方の旅を終わらせます』なんて予告してきたじゃないですか。きっと根はいい人なんです」

渡の話を信じる理由を問われ、思った通りに答える夏美。

「じゃあ、しばらくはこの奇妙な世界に居着いてみるとするか。旅立つべき時が来たら俺達の世界だけでもこの世界から分離するだろ」

「おっ、士にしてはまともなコメントじゃ〜ん。どうしたんだよ急に」

「俺は元々まともだっ!!」

今後の方針を（ほぼ即決で）決め、早速じゃれ合う野郎二人に、夏美は若干呆れながらも栄一郎の焼いたクッキーを食べ、微笑んで

いた。

プロローグ 到着、平成ライダーの世界（後書き）

と、いう訳でディケイド一行参戦（？）です。
渡さんには説明キャラ化して貰いました。

ちなみにリイマジ達はユウスケ以外出さない予定。

次回もディケイド一行が主役

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2624s/>

RIDER WORLD

2011年10月7日15時21分発行